

技術者としてこれからの時代を担う皆様へ

わた なべ おさむ
渡 部 修*

1. はじめに

平成30年4月に32年間勤務した北陸地方整備局を退職した。この間、主に河川事業、砂防事業、そして防災事業に携わってきた。これまでを振り返り、感じたことをお伝えしたいと思う。

今回は、河川事業の中でも、河川の管理と防災業務を経験し、感じたことについて述べさせていただく。

2. 大切にしてきたこと

振り返る前に、私が仕事をする上で、大切にしてきた3つのことについて記述させていただく。

ある時、先輩から言われたことで、いつも意識していたことがある。それは、仕事をするにあたり、「目的は何か」「いつまでに行うのか」ということだ。的外れな成果の防止にもなり、仕上げの精度にも影響するため、常に意識するようにしていた。

また、行政に携わる技術者は、幅広い知識を求められるが、その中でも、得意とする分野を持つこと。経験を積むことをお薦めする。それは、自分の自信となり、糧となる。

さらに、細かなことではあるが、業務を進める上で、メモをとること。併せて、自分で得た知識を忘れないため、大切だと思われる事柄は、ノートに整理することだ。後々大変役にたった。

3. 河川事業に携わり思うこと

1) 仕事を進めるにあたり

(1) 川を見る

よく言われることであるが、目的意識を持って川を見ることが大切だと思う。特に、洪水時の川の状況は、貴重な経験になる。水の流れ、濁流の臭い、流木、その時の観測所の水位、流量が、どれくらいで、河川はどのように変化するのか。

その状況をイメージできるということは、その人にとって大きな財産である。



写真-1 目的意識を持って川を見る
(写真提供：北陸地方整備局)

(2) 川の話聞く

先輩の方々から話を聞くことは、大変有意義である。例えば、過去において、どこで破堤したか、その時の対応はどうであったか、失敗したこと、有効だったこと、時代の流れとともに求められる事柄が変化しても、基本は一緒である。

(3) 川を知る

その川の成り立ちや歴史を学び、その川の特長性を知ることが重要である。河道の変遷や被災履

*前国土交通省 北陸地方整備局 河川部 河川情報管理官（企画部防災課長、大町ダム管理所長を歴任）

歴等はもとより、地域と川との関わりなどの文化を含め知ることは、仕事をスムーズに進める上で大変役に立つ。



写真-2 地域と川との関わりを知る
(写真提供：北陸地方整備局)

2) 河川の管理

多岐にわたる河川管理の業務から、私の経験を踏まえ、維持修繕と構造物の許認可業務における大切だと思うことについて述べたい。

(1) 維持修繕

・プライオリティ

緊急性の度合いと背後地の状況等社会的影響を考慮し、総合的に判断する。マトリックス図を作り整理することも論理的に説明できる1手法である。いずれにしても、常に根拠が必要である。

・サイクル型維持管理

予算の制約がある中、効率的、効果的な維持管理を行うためには、やはり、状態把握を継続的に行い、評価し、修繕する、PDCAサイクルを構築し徹底して行くことが重要である。そのためには、その川の特徴、特殊性を掴むことだ。

・きめ細かな管理

施設の管理は基より、水防活動や油流出を想定した整備も重要である。堤防上での車両交換場や油流出が多い市街地からの支川合流部における坂路設置、オイルフェンスや吸着マット等対策をとるための作業ヤードの整地やその通年をとおしての除草等、何ができるか工夫しながら、できることは確実に言う。



写真-3 水防活動を想定した維持管理
(写真提供：北陸地方整備局)

(2) 構造物の許認可業務

・打合せのスタンス

申請者の話をよく聞くこと、的確なアドバイスを行い、判断し結論を出すというスタンスを打合せ時には常に持って望む必要がある。河川管理者として、判断せず結論を先延ばしすることは、申請者に迷惑をかけることになる。

・関係法令

河川管理者として判断するためには、関係法令の例えば構造令において、なぜこのような記述になっているかを含め、熟知していることが求められる。解らなければ知っている人に聞き、理解することが重要である。

4. 防災業務に携わり思うこと

1) 仕事を進めるにあたり

(1) 役割分担

日頃から、役割分担を決めておくこと。大規模自然災害のような有事の際、やるべき事柄は決まっている。いろいろなパターンを想定し、シミュレーションを行っておくことが大事である。

(2) 情報の共有と伝達

入手した情報の共有、関係箇所への伝達は、確実に行う必要がある。「対応しているはず」「やってあるはず」という思い込みではなく、必ず確認することが重要であり、少し時間を要してもやるべき事である。

(3) 振り返り

防災業務の締めくくりとして、振り返りを行うことは非常に大切なことである。例えば、テックフォースの報告会である。あまり時間を置かないうちに開催し、改善すべき事項は早期に対応し、次期派遣に備える。この繰り返しが、今に繋がっている。

2) 防災業務

ここでは、過去の大規模災害時に何度かテックフォースとして派遣された時の思いと整備局で経験した防災業務とおし感じたことを述べたい。

(1) テックフォース

・被災地での留意点

被災地で仕事を行っているという意識を持つことが大事である。被災者、被災地域に対する気遣い、具体的には、言動や行動に注意すること。頭で理解していても、長期の派遣であり、つい忘れてしまうこともある。日々のミーティングを活用し、みんなで再確認することが重要である。

・臨機な対応

被災地では、何が起こるかわからない。その時々での臨機な対応、判断が必要となってくる。被災者からの要望を受ける場合もあるし、偶然に本来業務とちがう事象を発見する場合もある。急ぎ、対処することが大切である。



写真-4 テックフォースによる支援
(写真提供：北陸地方整備局)

(2) 他機関との関係構築

・備えの第一歩

防災業務に携わる者として、人を知り、相手組

織のことを知っておくだけでも初動時の行動に大きく寄与する。そのような意味においても、毎年、継続的に行われる会議が重要であり、大切にすべきである。また、私は、以前、大規模な訓練を経験したことがある。中心的に動く機関のまとめ役の方々と気軽に連絡を取り合える関係ができたことにより、スムーズに事を運ぶことができたことと記憶している。顔の見える関係を構築しておくことの重要性をあらためて再認識した。



写真-5 継続的に行われる会議
(写真提供：北陸地方整備局)



写真-6 他機関と連携した大規模訓練
(写真提供：北陸地方整備局)

5. おわりに

私が退職し、今つくづく感じていることは、まわりの人に助けられ、なんとかここまで来ることができたということ。皆さんも一緒に仕事をしている仲間を大切に、良い雰囲気の中で仕事をさせていただきたいと思う。そして、自分自身の小さな目標を定め、少しだけ頑張る。少しだけ努力する。達成したときは、自信となり前向きに物事を考えられるようになる。

我々が若かった頃と今では、仕事のやり方も仲間との接し方も異なる。今回、私の思いを述べさせていただいた。ほんのわずかでも参考になれば、幸いである。